

第11回 コメ（水田）政策と飼料用米に関する 意見交換会2026

日時：2026年11月27日（金） 12：00（開場）
午後1：00～午後4：30

会場：中央区日本橋小伝馬町15-15 食糧会館5階会議室A/B
<https://www.zenbeihan.com/overview/#address>（案内地図）

開催形式は、実集会とZOOMのハイブリッドで開催します。

<https://x.gd/9DslQ> ZOOMに参加する

対象：行政・自治体、コメ生産者、畜産生産者、流通事業者、
農業団体、飼料製造/販売事業者、物流事業者、
消費者団体、研究・教育・学生関係者、報道関係者 等

主催：一般社団法人 日本飼料用米振興協会

参加費：無料

申し込み：wakasa7777ryoji@gmail.com 氏名/組織/所属/役職/メール

開会挨拶：一般社団法人日本飼料用米振興協会 理事長 海老澤 恵子
意見交換会のテーマ：「水田政策の転換に対応した今後の飼料用米の展開
方向について」

パネラーからの報告と意見表明：

生産サイド：秋川牧園 生産部次長・農場長	村田 洋
畜産サイド：株式会社ホクラクファーム代表取締役	小高浩平
消費サイド：生活クラブ事業連合会 顧問	村上 彰一
学識サイド：元東京農業大学 教授	信岡誠治
司会進行（コーディネーター）： 日本飼料用米振興協会（東京大学・名誉教授）	谷口信和

下記の飼料用米の関係者の皆様にも、会場（ZOOM含む）にアドバイザーとして参加を頂き、会場での意見交換の際にアドバイスを頂きます。

東京農業大学 農学部 教授	加藤 浩
木村牧場 代表取締役（ZOOM参加）	木村 洋文
昭和産業 フィード事業部業務企画グループ課長	北川 陽一

開会挨拶：一般社団法人日本飼料用米振興協会 理事長 海老澤 恵子

一般社団法人 日本飼料用米振興協会



開催趣旨

最近の米需給は、2024年夏から2025年冬にかけての米不足と米価暴騰という「令和の米騒動」から一挙に様変わりとなりコメ余りと米価の下落が顕著となっています。

これは2025年産米の主食用米の生産量が747万 t と2017年以来最高となったことと米の需要量が減少したことなどが主な要因です。

このため米の民間在庫は2026年6月末で243万 t となり比較可能な1999年以降、在庫水準は最も高くなって在庫率は36%です。

加えて2026年産米の生産量は前年産とほぼ同等の741万 t が見込まれることから、2027年6月末の民間在庫は約246万 t が見込まれ在庫はさらに積み上がりそうな状況となっています。

米価格の指標となる2026年産米の概算金は、1俵（玄米60kg当たり）で福島「天のつぶ」の12,000円から新潟の「魚沼コシヒカリ」21,000円まで落ち込み、前年比3～6割減の下落（平均すると4割強の下落）となっています。

これは農水省が示した米のコスト指標20,535円/60kgを下回っており、上回っているのは「魚沼コシヒカリ」と富山の「富富富」の20,800円だけです。JA以外の商系の前渡し金はもっと低く10,000円/60kgのところもあります。

2024年産米と2025年産については集荷合戦が展開されましたが、2026年米では集荷合戦はなくなり系統農協への出荷が増える見込みです。

このように様変わりとなったコメの流通や経済環境の中で、主食用米の米価高騰の余波で2026年の飼料用米の作付面積は約2万4,952haと前年の4万6,004haに比べて2万1,052ha(46%)減とほぼ半減となり、生産量も約13万 t で前年に比べて12万 t （48%）減少しています。

そこで、今回の水田政策と飼料用米に関する意見交換会ではパネラーの有識者と関係するアドバイザーの方々に水田政策のあり方と飼料用米の今後の展開方向に関するご意見を出していただき、パネル討論を行います。